



読書界 1月号

テーマ「ほっこりする話」

『いとみち』 越谷オサム 新潮社

青森の高校に通う16歳の相馬いとは、人見知りを克服するためにアルバイトをすることを決意する。思い切っ
て始めたアルバイトは、なんとメイドカフェ！ 津軽弁の訛りがひどくて挨拶も上手にできない、ドジばかりの
いとであったが、シングルマザーの幸子やお調子者の先輩たちに鍛えられながら少しずつ前進していく。なの
に！ なのになのに！ メイドカフェが閉店だって！？ その危機を回避するため、いとは……。

困難に直面しても頑張り続けるヒロインの姿に元気づけられる、そんなほっこり小説です。

1年男子

『夜のピクニック』 恩田陸 新潮文庫

貴子と融は異母兄弟でありながら、お互いを避け、まともに会話したことがなかった。

その状況から抜け出すべく、貴子は、高校生活最後の行事、歩行祭で、ある賭けに出る……。

ただ80km歩くだけの歩行祭だが、その中で高校生ならではの多くの感情が交差し、共感できる場所も多数
あります。個性豊かな友達との揺れ動く想いが描かれた素晴らしい一冊です。

1年男子

『昨夜のカレー、明日のパン』 木皿泉 河出書房新社

この本は短編集で、亡くなったテツコの夫である一樹の周りの人物の話が続きます。一人一人違うものを抱え
ながら生きていく、そんな姿に勇気ももらえます。私は「一樹」というテツコと一樹の出会いを描いたお話が一
番好きです。テツコが雨の中駆け抜けていく姿はとても印象的で、いつまでも頭に残ります。最後に、私がこの
お話の中で好きな「生きることは動くこと、動くことは生きること。」という言葉に、こたつでぬくぬくとして
いたあなたに。

2年女子

『キノの旅 -the Beautiful World-』 時雨沢恵一 電撃文庫 (KADOKAWA)

主人公はしゃべるモトラド（バイクのようなもの）のエルメスと旅をする「キノ」。「大人の国」や「多数決
の国」など様々な国を旅する。彼は一つの国に三日間しか滞在しない。その旅の中で様々な価値観の人と触れ合
っていく物語です。「世界は美しくなんかいい。そしてそれ故に美しい。」あなたも是非「キノの旅」の世界観
を一度味わってみてください。

2年男子